

総指伸筋における破格例の報告と支配神経の解析

澤 田 月 杜¹⁾ 灰 塚 嘉 典²⁾ 上 野 仁 之²⁾ 松 村 讓 兒²⁾
長 瀬 美 樹²⁾

1) 杏林大学医学部3年

2) 杏林大学医学部肉眼解剖学教室

【背景・目的】

本研究は杏林大学医学部解剖学実習に供された遺体で発見した総指伸筋の破格例について肉眼解剖学的に検討したものである。総指伸筋は橈骨神経深枝支配で、上腕骨の外側上顆に起始する。その後、前腕で第二～第五指に向かい、通常4本の腱に分かれて、指背腱膜に移行した後、各腱の末端は3分して中央は中節骨底、両側は末節骨底に停止することで、手指の伸展に働く。今回発見した破格例は長母指外転筋と総指伸筋において特異な所見を呈していたので、その支配神経も含めて解析し、従来の報告と比較検討を行った。

【方法】

破格部位である左総指伸筋を、起始、停止、支配神経含めて摘出し、3% KOH/H₂O₂液に3週間浸した後、流水洗浄した。次にSihler I 溶液（氷酢酸：グリセリン：1% 抱水クロラール＝1：2：12）に2週間浸して脱灰した。さらにSihler II 溶液（エールリッヒヘマトキシリン：グリセリン：1% 抱水クロラール＝1：2：12）に2週間浸し、神経染色を行った。染色後、Sihler I 溶液に数時間浸して、水道水で水洗し脱色した。その後、0.05%炭酸リチウム液中に浸し、神経の色出しを行い、透明化のためにグリセリン液に浸して冷所保存し、1週間後に肉眼にて観察した。

【結果および考察】

正常例における総指伸筋とその周囲の筋および第一指に停止する筋（長母指伸筋、長母指外転筋、短母指伸筋）を図1、本破格例を図2に示す。総指伸筋の過剰腱は右側肢や他の実習体では認めなかった。過剰腱は長母指外転筋の

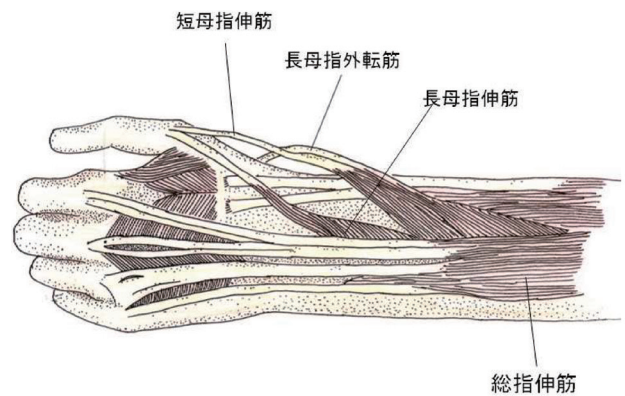


図1

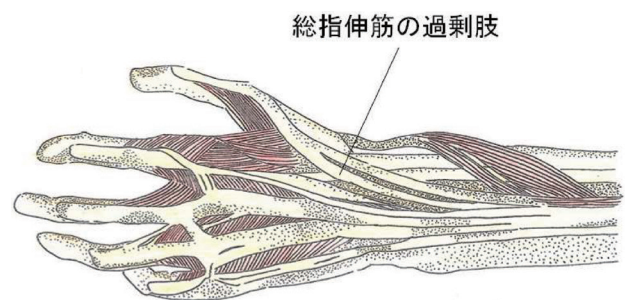


図2

起始部付近から分岐して第一指に向かっており、第二～五指の腱と比べて細かった。総指伸筋の過剰腱は竹内ら(1978)¹⁾と佐藤(1969)¹⁾の報告があるに過ぎない。本例における過剰腱への神経分布を確認するため、Sihler染色を行い解析した。染色の結果、橈骨神経深枝から分岐したものであることが明らかとなった。本例の様な破格の場合、第一指と第二指は互いに独立した運動をせず、一方の運動

によりもう他方の運動が誘導されと考えられる。竹内らの報告では長母指伸筋は正常に出現した。佐藤の報告では過剰腱は27%の頻度で認められるが、長母指伸筋が欠如している場合は、代替腱として出現すると考察している。本例では長母指伸筋の欠損はなかったので竹内らの報告と類似する。本例の左側の長母指伸筋腱は右側と比較して細いため、総指伸筋由来の過剰腱は長母指伸筋の運動の補助

的役割を担っていると考えられた。

【参考文献】

- 1) 竹内修二, 加藤征, 小宮洋子, 早速晴邦, 指伸筋の母指への過剰腱2例について 解剖学雑誌 第53巻 第5号 p377-378 1978年10月